

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市子育てふれあいプラザ
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 11,112人（前年度比 110.4%） 内訳 ひろば利用者：9,557人、託児利用者：1,555人 ※視察等の利用者：271人 令和2年度 10,067人 令和元年度 36,312人 <p>《事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児親子の交流の場の提供、一時預かり、子育てに関する情報収集・提供等、子育てを総合的に支援する事業
5 収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 30,376千円 (26,884千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 3,459千円 (2,486千円) その他収入 25千円 (33千円)
6 利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見箱の設置 イベント参加者に対してアンケートを実施

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	<ul style="list-style-type: none"> 協定書に示す関係法令および条例等を遵守し、また、職員が条例に規定する施設の設置目的を理解し、施設の運営を行っている。 利用者アンケートの満足度が総じて高く、子育てを総合的に支援し、安心して子育てができるまちの実現に大きく貢献している。 	21/21
II 施設の運営管理体制	<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルを整備し、事故や災害発生時にも迅速に対応できるよう体制が明確化されている。 訓練や講習、研修などを積極的に行い、職員の意識向上に努めている。 個人情報保護や情報セキュリティ対策についても、ソフト・ハード両面について適切な取り組みがなされている。 	29/29
III 施設・設備の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児が利用する施設として求められる安全性等を十分に理解したうえで、遊具等が破損していないか、利用者が快適に利用できるかなど、館内の状況に常に配慮し、利用者が安全かつ快適に利用できるよう維持管理を行っている。 ごみの分別や職員のごみの持ち帰り、紙の再利用を徹底するなど、環境へ配慮した取り組みも行っている。 	19/19
IV サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> イベント参加者へのアンケートの実施、利用者懇談会の開催や意見箱の設置により、意見や要望等を積極的に取り入れ、利用者の視点に立ったサービスの提供を心掛けている。 職員間においても、業務ごとのマニュアルを整備し、日々のミーティング等で情報共有を図るなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ロールプレイ研修を実施し、適切な対応や統一感のある対応に努めている。 	28/28
V 施設固有の基準	<ul style="list-style-type: none"> 子育てふれあいプラザの設置目的と役割を十分に理解し、利用者のニーズを的確に把握しながら、乳幼児親子の交流の場の提供（ひろば事業）や一時預かり事業、子育てに関する情報収集・提供事業などを適切に実施している。 	9/9

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク）による自己評価》
<p>コロナ禍での感染状況に合わせた開館運用の中、利用時間、利用人数、活動内容等を随時見直しながら、利用者への適切な対応を行い安定した施設運営に努めた。利用者アンケートの利用者満足度の評価は高く、職員や施設への意見で高い評価を頂けたことを謙虚に受け止め、日頃の運営の更なる励みとしていきたい。</p> <p>今年度も研修を通じて子育て支援の基礎を学び直すとともに、中堅者向けの研修を初めて実施し、職員一人ひとりの意識の向上と体制強化を図った。「震災からの取り組み」と題し、子育て支援拠点施設からみた災害時の様子を改めて振り返ることで、災害時に活かせる学びとなった。また、震災時の母親たちの見えない心の支援の難しさは、コロナ禍での支援においても考える必要性があると分かった。各マニュアルを確認し、現状に適した内容へ適切に見直しを計った。利用者も含めた避難訓練の実施は、防災の取り組みに活かすことができ、併せて緊急災害時の備えの検討や職員体制等の整備を行った。</p> <p>開館から18年を迎え、施設や遊具、備品の経年劣化は大きく見られ、アルコール消毒による傷みもあるが、日々衛生的に管理することで保つことができている。飲食スペースは活かせないため縮小し、ひろばスペースを拡大してひろば内が密にならない工夫を行った。</p> <p>父親の積極的な利用が見えてくる中で、父親同士をつなぐ交流イベントを企画した。父親の育休や母親との関わり、仕事と家事・育児の両立等を話題に交流する姿があった。今後も更に父親が話せる場づくりを検討していきたい。</p> <p>「青葉区ご近所会議」「こみゅ〜んひろば」の連携事業団体、施設、機関との関わりから、交流会等に参加しつながりを広めた。また連携してイベントを行うことで、青葉区市街地の地域づくりを見直すことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>ひろば事業では、ひろばのスペースおよび赤ちゃんひろばのスペースを拡大するなど、密にならないような工夫を施し、利用者が安心して快適に過ごせる環境づくりに努めている。また、父親の積極的な利用や要望を踏まえ、父親同士の交流イベント「パパと一緒にのびバブday」を企画・実施するなど、利用者のニーズを反映させながら運営に取り組んでいる。さらに、コロナ禍において外遊びの需要が高まっていることを受け、西公園や錦町公園での外遊びイベントを開催したことも評価できる。</p> <p>相談事業では、子育て家庭が抱える介護の悩みについて、地域包括支援センターと連携し、ダブルケア支援に取り組むなど、支援の幅を広げている。</p> <p>また、市街地の子育ておよび子育て支援の底上げを目的に結成された「青葉区ご近所会議」の事務局を担っていることに加え、「チームai子」や「宮城地区子育て応援団こみゅ〜んひろば」を通じて宮城地区の子育て支援を行うなど、地域の子育て支援や子育て支援ネットワークの構築に大きく貢献している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館時は、近隣の公園に向いて電話やオンラインによる相談、オンラインイベントの広報活動を実施したほか、自粛生活中の子育て家庭の声を聴くなどの取り組みを行った。また、大学生の読み聞かせボランティアを、感染状況を鑑みながら人数を限定して受け入れることで、次世代を担う若者の学びの機会となる活動の継続にも努めた。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部総務課